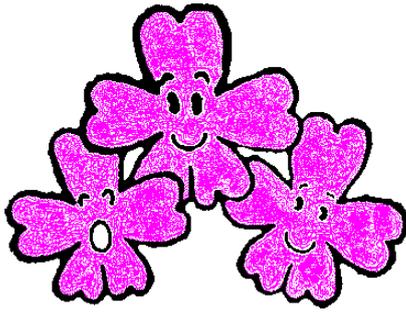


NO. 40

令和1年 6月 1日発行



こころ

特定非営利活動法人

指定就労継続支援B型事業所

阿波就労支援センターアスカ

〒771-1702 徳島県阿波市阿波町久原36番地2

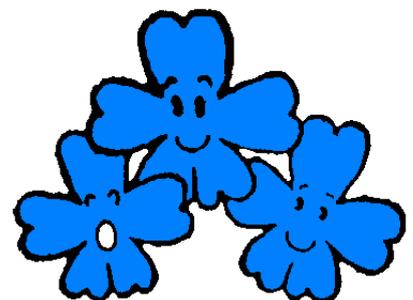
電話・0883(35)6020

FAX・0883(26)5560

メールアドレス asuka@npo-asuka.jp

アスカホームページアドレス

<http://npo-asuka.jp>



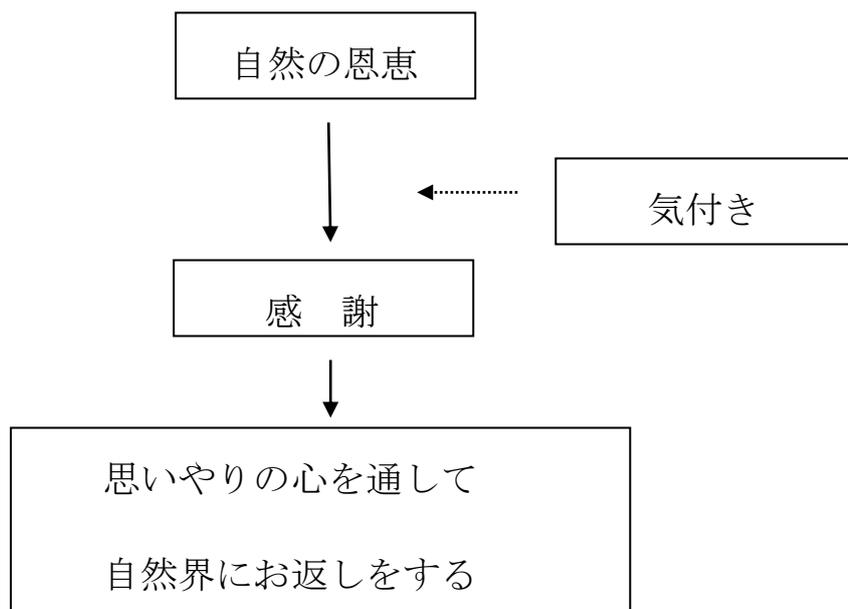
何事もプラス発想で

理事長 笠井 光顕

私達は大自然の中で生かされています。
毎日美味しい空気を「ただ」（無償）で戴いています。雨の日はいやだ、鬱陶しいと愚痴をこぼすが、考え方を変えれば、雨（水）がなければ動物（人間を含む）や植物は生きることが出来ません。この雨も「ただ」で戴いていることに気づくことで、いやだった気持ちも感謝の気持ちに変わってきます。

これからは、暑い日が続く季節になります。暑い日に今日も、くそ暑いなどと愚痴をこぼすと、余計に暑く感じます。そこで少し考えを変えてみると、この暑い太陽の光や熱も「ただ」で戴いていることに気づき感謝の気持ちで受けとめると、暑さもやわらいできます。

朝、目が覚めると最初に、今日も1日元気で、元気で頑張ろうと自分に言い聞かせよう。食事の時には今日もこんなに美味しいものを戴ける、ありがたいなと自分に言い聞かせる事で何を食べても美味しく戴けます。



何事をするにも「どうせするなら」喜んで、楽しくすることで健康になります。いやいやすると精神的なストレスがたまり病気になります。毎日楽しく、明るく生活をしましょう。

令和になって初めての機関紙「こころ」です。来年は20周年の節目を迎えます。節目に向って職員、利用者共々に頑張る参りますので、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

中堅職員ファーストステップ研修に参加して

生活支援員 横川 英里

日 時：平成 30 年 11 月 6 日～平成 30 年 11 月 7 日

場 所：県立総合福祉センター

研修内容

<1 日目> 中堅職員へのステップアップとして講義と演習

講義では、中堅職員に求められるリーダーシップや中堅職員は“どうあるべきか”という事を学びました。

日頃のミーティングなどによりお互いに共感・共有する関係性をきちんと作っておくと何か問題が起こった時に問題解決に向けて発揮できるという事を学びました。また、リーダーシップとは引っ張っていく事ではなく助けを求めることであるとも話されていました。そしてスタッフ全員リーダーシップが必要だと話されていました。

ゲームを通して、その日に初めて合った方 5 名と共通の課題に向き合う事によりグループからチームになるという体験をしました。その過程で自分の意見を出す時の難しさや自分とは違った意見でハッと気づくという体験をし自分と違う意見は面白いなと感じました。

<2 日目> 討議・演習にて改善・対応プランニングを立てて発表

付箋に日頃気になっている課題を書き出し、みんなで話し合い模造紙にまとめて発表しました。作業所は違ってもそれぞれ感じている事にそれほど差はないなと感じました。

2 日目の研修では自分の力不足を感じました。そして自分のコミュニケーション力が全く足りていない事が改めて身にしみました。大切なものを見極めて、時間を大切にテキパキと仕事をし、自分 1 人で仕事をせず、必要な時には周りに助けを求めることも必要だという事を学びました。

そして、ミスが起こった時にどうするか?といった問題では、問題との距離感が大事である事を学びました。他人のミスだと思って対応すると問題に対しての距離感が遠くなり、問題解決には至らないそうです。お互いに共感・共有することが大切で職場のみんなで職場内研修などにより共有しみんなで同じ問題に向き合い、話し合う事が問題解決行動だという事を学びました。

チームワークは日頃のコミュニケーションや、まわりへの感謝によって強まり、良いチームワークが出来ると問題解決行動にとっても役立ち、いい仕事へと導くことが出来ると学びました。

学んだ事は活かせるよう努力しようと思います

「発達障害者とともに働く職場づくり」研修に参加して

職業支援員 鎌田 小夜

日 時：平成 31 年 3 月 5 日

場 所：イオンモール徳島

研修内容

①はじめに（プロローグ）

*障がいとは何なのか？

「障がいとは周囲との関係性で生まれる」

物理的な環境を整えることや、

人的なサポートがあれば問題を解決することができる

*発達障がいの人数

統計（小中学校・大学の統計調査）としての発達障がい者は、増加傾向にある

印象に残ったのは、近年大人の発達障がい者が増加しているという事、職場の上司の意見として『自分が発達障がいについて勉強するのはいいが、社員に勉強をしてもらうのは難しいから、発達障がい者の雇用は・・・。』という受け入れに消極的な意見もあり、発達障がい者の就職が難しい現状にあるという点です。

また、発達障がいが目に見えにく障がいに当てはまり、受け入れのイメージがつかない事から、発達障がい者の就職先や活躍の場が限られてしまっているという現状にあるのが非常に残念な事であると思いました。

②発達障がいの特性を理解する

例えば、日本の社会において“暗黙のルール”という言葉に出さなくても伝わる分かるだろうという流れが生活の場面でたくさんあり、社会性（対人関係）において苦手さがある ASD の方にとっては理解が難しく、仕事をする上で様々な支障が出てきてしまう事があるそうです。私たちにとっては“当たり前”とされていることが相手に伝わらなくても「それくらい分かるよね！」という気持ちではなく、まずはどのような場面において相手の苦手なことや困難さが現れるのかを理解し配慮をする環境づくりが必要だと思います。そして、互いの考えを明確化することで、考え方や受け取り方のズレをなくして、本人なりに真剣に考えて出した結論を一蹴せず受け入れ認める、一般的な捉え方を知識として相手に伝える、適切な行動を経験する機会を提供するといった、認める・伝える・経験するという関わりを大切にして、仕事での「わかる」を増やし、障がいがあっても安心して仕事をしていただけるように進めていくことが重要であると分かりました。

③発達障がいと仕事

発達障がいの方が働くにあたって納期の長さは大切だと話されていました。例えばプログラマーやデザイナーの仕事では、仕事の内容は自分に向いていても、納期が短かかったり、個人としての判断を求められる場合に仕事上の支障（曖昧なものを形にするのが苦手）が出てきてしまう。判断やコミュニケーションの苦手さに対しては、

本人との最終的な調整をし、本人に合わせていくことで安心感を持っていただき、仕事のやりやすさの実現につなげていくことが必要だそうです。しかしこれは理想論であり、全ての事を実施するのは難しいかもしれないと話されていました。

私はこの講義を受講するまで、発達障がいの方が働くには、職種が限定されてしまい本当に自分がしたい仕事を諦めなければならいのではないかと、暗いイメージしかありませんでした。しかしこの講義では、発達障がいを抱えていても、苦手な部分を自分自身が把握し、その部分に工夫をすることで苦手さをクリアし、そして自分にあった仕事を見極めることで仕事での活躍が期待でき、社会とのつながりが持てるという可能性があることが分かりとても安心しました。

たとえ課題は多くても、一筋の明かりが見え、仕事への希望が持てることが何より嬉しいことだと思いました。

④職場での気づきと課題解決

発達障がい者への配慮と他の職員への配慮では重なる部分があり、障がい者の為

にだけ特別に職場環境を整える対応をしなければならないという視点で捉えるのではなく、1人1人が働きやすい環境づくりをとという広い視点で進めていく必要があるということが分かりました。

⑤ケーススタディ

実際のケースを紹介していただき、私ならどういう対応をするかな？と各自で考えました。

起こってしまった事柄だけに焦点を当てるのではなく、その背景にある原因を知ろうとする気持ちが大切になってくるのだと改めて実感しました。「何でそうなの？」だけでなく「ではどうしてみようか」という前向きな考え方を持たなくては、お互いに良い方向に進まないのだと気づきました。また、人として相手を尊重する姿勢を忘れずに、決して支援者が上ではないということを忘れてはいけないと思いました。

⑥誰しもが働きやすい職場づくりに向けて

ある発達障がいの方（フリーランス）が、ある実験をしたそうです。その実験とは、発達障がいをオープンにした場合としない場合とでの仕事を任される割合はどうかとの実験です。結果は、発達障がいをオープンにした場合、仕事の依頼がゼロ件だったとのことです。このことから、発達障がいとしてのリスク面が社会で大きく捉えられているということが分かった実験結果になったと話して下さいました。

私は、職業指導員として仕事をさせていただいていますが、何より怖いと思ったことは知識不足や理解不足であるということです。知識があり、その方について理解ができれば、その方の人生が、楽しく豊かなものになるようお手伝いができるからです。講義の中で、発達障がい≠この人の全てではない、発達障がいはその人の一部であるという話がありました。私たち周囲の人々に発達障がいについての知識が少しでもあれば発達障がいの方やその家族の方がもっと生きやすい社会になるのではないかと思います。今後は、職業指導者として、発達障がいに関しての知識を深めていくとともに、障がいの部分ばかりに目を向けるのではなく、その方の心を大切にしていけるような職員になりたいと思います。

「ナイスハートふれあいのスポーツ広場 藍住大会」に参加しました

と き 2019年5月14日（火）

と ころ 藍住町町民体育館

主 催 全日本自動車産業労働組合総連合会

（公財）国際障害者年記念ナイスハート基金

後 援 内閣府/スポーツ庁/徳島県/藍住町/藍住町教育委員会

「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」は自動車総連の20周年記念事業として財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金の協力を得て開催されています。

アスカは昨年より参加させて頂き今回で2回目となります。今年は選手宣誓をさせて頂く事となり、3名の方が立派に大役をはたしました。

主催者の方から「声が揃っていて素晴らしかったです」とお褒めの言葉を頂きました。



選手宣誓

芝原昭典さん

大久保順子さん

林 星奈さん

お疲れ様でした



受付で頂いたおそろいのTシャツに着替え、組合の方々と楽しいひと時を過ごしました



利用者さんの1人1人の心がけによりケガなく無事終ることが出来ました

阿波地区民生委員・児童委員協議会とスポーツ交流をしました

と き 2019年5月30日(木)

と ころ 阿波市阿波体育館

日頃より地域福祉の担い手として様々なご活躍をされている事に心から感謝申し上げます。アスカの利用者さんにとっては、住み慣れた場所で安心して暮らせるように、さりげなく見守って頂きありがとうございます。

民生委員のみなさん、これからもよろしくお願い致します。



割石廣司 障害福祉部部長より
「怪我のないよう 心地よい
汗をかいて下さい」とのあいさつで
スタートしました。



今日はお疲れ様でした！



みんなを代表して
ありがとうの気持ちです！

今年もAWAにじいろクラブさんのご協力により、いろいろなニュースポーツの種目を用意して頂きました。スポーツを家族と一緒に考えている方、仲間探しをしている方など興味を持たれた方はこちらへ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 080-2981-7914 クラブマネージャー割石 文子

「感謝の気持ち」と「歯を大切に」を忘れずに！！



と き 2019年2月14日

と ころ バーベナの里

内 容 口腔内検診と歯科予防の普及と啓蒙を実施

阿波市安田歯科さまからご提案を頂き、口腔内検診とブラッシング指導をして頂く事となりました。

口腔に関する意識を高めることや予防的概念を心がけることを、楽しく分かりやすく伝えて頂き、利用者、職員一同心より感謝いたしております。

ご指導により、キレイな口腔内を意識するようになりました。

今後とも何卒よろしくお願い致します。



口腔内検診（学校検診と大きな違いはありません）

歯みがきの方法とポイントを教えていただきました！



歯ブラシの当て方、動かし方、力加減を意識してみよう。

震災避難訓練を実施

と き 平成 30 年 10 月 30 日
ところ 第 2 出張所
内 容 震災が起きたと想定して避難を行う



机の下へ



頭を守って

おさない



安全を確認
外へ誘導



消防へ連絡



避難を行う時は
押さない、駆けない、しゃべらない、戻らない



まさか、ではなかった！

先日のことです

第二作業所で作業をしていると、グラグラと横揺れが…まさに本物！
防災無線から「阿波市震度四」との放送が流れ、直ちに誘導を行いました。

安全を確認して、本所で全員待機。大事に至らず良かったです。

時と場所によっては限られた数の職員での対応となります。
“いざ”の際、慌てず迅速に、かつ安全に行えるよう日頃から訓練は必要と思いました。



ご家庭でもチェックを！

「ナイスハートふれあいのスポーツ広場 藍住大会」にて



令和1年5月14日（火）藍住町町民体育館



編集だより

平成から令和へ

それぞれの想いで新しい年号の始まりを過ごしておられると思います。
私も2度元号改正の瞬間に立会い、“平和でありますように”と心から願いました。
4月から鳴門教育大学附属特別支援学校卒業生梶崎太智さんが新しく加わりました。
令和という時代も利用者さんと同じ時間を過ごしなが、笑顔になれる活動を提供できる職員でありたい。そんな生き方が出来れば幸せです。
今度ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ致します。

Chiho・Hosotani